

# 環境・循環型ライフスタイルづくり見学会

と き 平成19年11月23日(金・祝)

ところ コープこうべ六甲食品工場 コープ土づくりセンター

参加人数 52人

## 開催趣旨

食品の製造工程、衛生管理体制など食の安全・安心及び生鮮食品加工くずの堆肥化の仕組みを学習する。

## テーマ

食の安全と生ごみの堆肥化を学ぶ

## プログラム

- ・食品工場見学及び食の安全・安心の学習(コープこうべ六甲食品工場)
- ・生ごみの堆肥化工場見学及び資源循環の学習(コープ土づくりセンター)

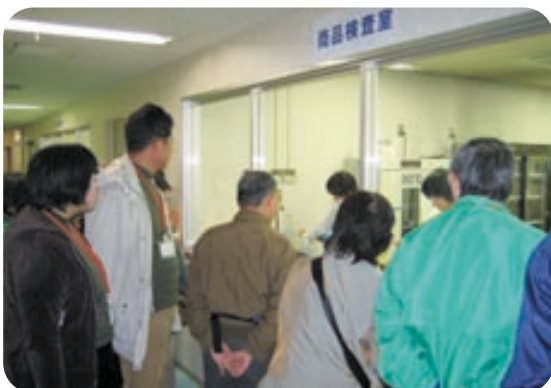
## 内容

### コープこうべ六甲食品工場

- ・生産工程を見学し、同工場の品質管理室の説明を受けた。
- ・工場で発生した食品廃棄物はメタン発酵設備により処理し、メタンガス(バイオガス)を発生させ、それにより電力・蒸気を作り、利用している。
- ・大量に発生する“おから”は、工場から発生する食用廃油を燃料にして乾燥させ、保存性の高い乾燥飼料として製造・販売をしている。
- ・食品工場で発生する食品廃棄物の96%がリサイクルされる。
- ・(質疑応答)最近、食品の消費期限・賞味期限の改ざんに関わる社会的問題が多発していることについて質問し、食品衛生法の食品表示記載事項では消費期限又は賞味期限の表示を定めているが、いずれもメーカーが決めるものであり、製造年月日の表示も求められていない。従って、メーカーの営業的な姿勢が問題で社会的責任(CSR)が重要であると説明を受けた。

### コープ土づくりセンター(堆肥化工場)

- ・コープ土づくりセンターはコープ店舗で発生する“生鮮食品の加工くず”などを原料として堆肥を生産している。リサイクル堆肥はエコファームの畑地などで利用されている(一部販売もしている)。
- ・堆肥化工場の屋根では太陽光発電をし、風力発電のデモ機もあった。



# 環境・循環型ライフスタイルづくり見学会

- と き 平成20年3月26日(水)
- ところ 五色BDF精製装置(ウェルネスパーク五色)  
洲本市有機資源センター  
南あわじ市バイオマス利活用施設  
CEF南あわじウインドファーム
- 参加人数 50人

## 開催趣旨

BDF精製装置、堆肥化施設、乾燥炭化施設、風力発電施設を見学し、学習する。

## テーマ

BDF精製、堆肥化、乾燥炭化、風力発電について学ぶ

## プログラム

五色BDF精製装置(ウェルネスパーク五色)→洲本市有機資源センター→  
南あわじ市バイオマス利活用施設→CEF南あわじウインドファーム

※BDF(B=バイオ・D=ディーゼル・F=フェューエル)：菜種油などの廃食用油から精製して得られる燃料のこと。

## 内容

### 五色BDF精製装置

- ・栽培・収穫された菜の花を搾油した菜種油を良質の天ぷら油として利用し、その廃食用油を回収し、BDF化してディーゼルエンジン燃料として使用するとともに、搾油時の油かすを堆肥化する「あわじ菜の花エコプロジェクト」、つまり資源循環型社会の実践モデルとして、地球温暖化防止とゴミの減量化に取り組んでいる。

### 洲本市有機資源センター

- ・有機性廃棄物である400頭から500頭の牛糞を発酵させ良質堆肥の供給と土作りを推進し有機栽培・特別栽培による安全・安心で新鮮な野菜生産の振興とエコファーマーの育成を行い、「淡路ブランド」の形成・維持を図っている。

### 南あわじ市バイオマス利活用施設

- ・玉ねぎの生産で有名な淡路島は大量の玉ねぎの残<sup>ざん</sup>さが問題となっており、これを炭にすることにより炭酸ガス(CO<sup>2</sup>)を炭素として固定化して、地球の温暖化を防止し、炭を土壌改良剤として農地に還元することにより、玉ねぎの残<sup>ざん</sup>さをリサイクルする循環型農業を促進している。

### CEF南あわじウインドファーム

- ・高さ129メートル、回転部の直径88メートルの風車15基で37500KWの電力を発電している。これは一般家庭の約12000世帯分(南あわじ市の全世帯の2/3)の電力をまかなうことができる。

